

環境共生生物学特論 I (2単位)

担当者氏名 鈴木 敏郎

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

現在、社会問題になっている食品の安全と安心について、その概念と指標を学ぶとともに、消費者と生産者間にある立場の違いを明確にし、共生が難しいとされている両者が、今後いかに共生していくべきかについて講義を進めていく。特に、食品における食の安全と安心、遺伝子組み換え作物、BSE 問題等を食品原料の搬入から、加工、流通、消費を通して、消費者と加工・流通・販売業者および行政間の考え方の違いを明確にしてその共生法を探る。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

食の安全と安心 遺伝子組み換え作物 BSE 鳥インフルエンザ
口蹄疫

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	食の安全と安心の概念	・原料から製品にいたるまでの各段階における食の安全と安心の概念について講述する ((第1～2週)	◎事前の学習により授業内容を理解するよう努めること。また、講義内容のプリントを配布するので、講義後プリントを参考にして復習すること。
2	遺伝子組み換え作物	・世界と日本における遺伝子組み換え作物の現状と考え方の相違について講述する (第3～5週)	
3	BSE 問題	・BSE の発生メカニズムと安全性の問題点について講述する (第6～8週)	
4	鳥インフルエンザ	・鳥インフルエンザの感染要因とその防除対策について講述する (第9～11週)	
5	口蹄疫	・口蹄疫の感染メカニズムとその防除対策について講述する (第12～14週)	
6	予備日		

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)
プリントを配布する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)
新訂版 食品のうそと真正評価／ 藤田 哲／ INS(2003)

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

レポート(80点)、授業参加度(20点)

◆オフィスアワー

毎週木曜日 16時30分～18時 畜産物利用学研究室

◆その他受講上の注意事項